平成 24 年度事業報告書

公益社団法人ガールスカウト日本連盟

生きるが育つ。
ガールスカウト

目　次

- 創始者ベーデン-ポウエル卿のことば
  ガールガイド・ガールスカウト世界連盟 2020 年のビジョン、使命、
  2012 年～2014 年戦略的計画の目標 1
- ガールスカウト日本連盟歴史的覚書、2020 年のビジョン、使命、
  2012 年～2014 年の目標 2
- 2012（平成 24 年）度　全体総括 3
- 事業実施報告
  1. 教育プログラム 6
  2. 成人のトレイニング 10
  3. 組織と運営 14
  4. 社会との関係 17
  5. 会員 20
  6. 財政 20
  7. 目的を達成するために必要なその他の事業 21
- 平成 24 年度民間助成金 22
- 平成 24 年度世界連盟への寄付 22
- 理事会議題一覧 23
- 叙勲・褒章・大臣表彰受章者 25
- 平成 24 年度日本連盟表彰 26
- 平成 24 年度都道府県別登録状況 27

創始者ベーデン-ポウエル卿のことば

ガールスカウト運動の目的は、
少女と若い女性を 3 つの H を持つ市民、すなわち
心身ともに健康（Health）で、人に役立つこと（Helpfulness）に
幸せ（Happiness）を感じることができる市民に育てることである。

ベーデン-ポウエル卿とオレブ ベーデン-ポウエル

ガールガイド・ガールスカウト世界連盟　2020 年のビジョン：
すべての少女と若い女性の一人ひとりが尊ばれ、世界を変えるために行動を起こす
ガールガイド・ガールスカウト世界連盟　使命：
少女と若い女性が責任ある世界市民として、自らの可能性を最大限に伸ばせるようにする
ガールガイド･ガールスカウト世界連盟　2012 年～2014 年戦略的計画の目標:
目標 1　　少女と若い女性が能力を伸ばし、リーダーシップを発揮する機会をより多く提供する
目標 2　　少女と若い女性が世界を変える力をつける

〔ガールガイド・ガールスカウト世界連盟　以下 WAGGGS　または、世界連盟と表記する〕

ガールスカウト日本連盟歴史的覚書

1920 年、英国聖公会の宣教師で、東京の香蘭女学校に教師として赴任したミス・グリーンストリートが、英国で始まったばかりのこの運動を伝え、イギリス連盟の日本支部として活動が始まった。その後、全国の英国聖公会の教会や女学校を拠点にして活動が広まり、1923 年に、ガールスカウト日本連盟の前身となる日本女子補導団となった。1928 年ハンガリーで開催された第 5 回世界会議で、ガールガイド・ガールスカウト世界連盟の創設が決定し、日本女子補導団はその創設会員のひとつとなった。その後 1939 年まで世界連盟の会員であった。日本が第二次世界大戦へと進む中、この運動が国際間の友情をはぐくむことを目的の一つとしていたため解散を余儀なくされ、1942 年に自ら解散することを決定した。

戦後 1947 年に、日本女子補導団当時のメンバーが、「日本の少女たちのための活動を」と再びこの運動を日本国内で始めるために集まり、GHQ の支援も得て、アメリカ流の 『ガールスカウト』という名称で再開し、ガール・スカウト日本連盟を結成した。1952 年には文部省（現 文部科学省）の主管で社団法人ガール・スカウト日本連盟が発足した。

ガールガイド・ガールスカウト世界連盟へは、1952 年 1 月に加盟申請を提出した。1952 年 8 月、ノルウェーで開催された第 14 回世界会議で準加盟が認められ、1960 年、ギリシャで開催された第 17 回世界会議で正加盟が認められた。

1966 年、第 19 回世界会議が東京で開催された。

2012 年、社団法人ガールスカウト日本連盟は、日本の法律改正により、公益社団法人ガールスカウト日本連盟に移行した。

（ガールスカウト日本連盟　基本綱領　抜粋）

ガールスカウト日本連盟　2020 年のビジョン：
すべての少女と若い女性が声をあげ、よりよい社会にするために行動を起こす

ガールスカウト日本連盟　使命：
少女と若い女性が自分自身と他の人々の幸福と平和のため、責任ある市民として自ら考え、行動できる人となれるようにする。

ガールスカウト日本連盟　2012 年～2014 年の目標：
目標 1　　少女と若い女性が能力を伸ばし、リーダーシップを発揮する機会をより多く提供する

目標 2　　少女と若い女性が社会を変える力をつける

〔ガールスカウト日本連盟　以下　日本連盟と表記する〕

2012 年（平成 24 年）度　全体総括

2012 年度は、公益社団法人としての初年度であり、2020 年のビジョンを「すべての少女と若い女性が声をあげ、よりよい社会にするために行動を起こす」と掲げ、取り組みを始めました。ガールスカウト運動に関わる人をさらに増やすことで、よりよい社会を構築するために貢献できる人材育成を行い、このビジョンの実現をめざしています。

また、一昨年度より取り組んでいる「ガールスカウトが女子だけで活動する意義」についての調査研究をすすめ、「女の子を育てるフォーラム」を開催しました。このことにより、ガールスカウト教育の有効性を確認することができ、さらにこれから果たすべきことについて確認することができました。

Ⅰ　会員数の増加

１．新会員の開拓（既存の会員制度以外の方法も視野に入れた新会員の開拓）

・新団が 1 ヵ団発団し、ガールスカウト活動を届ける地域を一つ増やすことができた。

・ともだち増やそうキャンペーンへの取り組みを都道府県連盟に呼びかけ、平成 25 年度テンダーフット部門の会員増をはかった。

・学校でのガールスカウト活動導入の検討を行ったが導入には至らなかった。

２．現会員の継続

・会員データベースの構築を行い、すべての会員に対し会員番号を発行し、終身会員証を交付した。

・会員データベースの構築により、継続率などを正確に算出できるようになった。

３．元会員の復帰

・機会を捉え、元会員の復帰に向けての声掛けを進めることの検討を始めたが、未だ実現に至っていない。

Ⅱ　ガールスカウトのイメージと知名度の向上

１．広報戦略の策定実施

・公益社団法人への移行に合わせ、ホームページのリニューアルを行い、会員内外への発信強化にむけ取り組みを始めた。

・アジア太平洋地域主催の資金調達に関するワークショップに会員を派遣し、その成果を生かし、広報戦略の策定に取り組み、日本連盟が「挑戦し続ける運動」であり続けることや、女性を真にエンパワーする団体であることを内外へ発信できるよう準備を進めている。

２．公的機関、企業・団体、地域との戦略的パートナーシップの強化

・ガールスカウト活動を大学の単位取得に結びつけるなど、新たな連携の方法を導入し始めた。

・国の機関、独立行政法人などの委員などに就任し、意見を述べるなどの活動を行っている。

・NHK をはじめとするマスメディアへの露出が増えつつある。
・国際ガールズ・デーをきっかけに、国連広報センターと国際 NGO であるプラン・ジャパンと共催事業を行い、パートナーシップについて研究することができた。
・WAGGGS リーダーシップ開発プログラム（以下 WLDP と表記）の開催を通し、企業との連携について研究する機会ができた。

Ⅲ 少女と若い女性にかかわる問題への影響力の強化

1．少女や若い女性、都道府県連盟、日本連盟のアドボカシー能力強化

・少女に対する暴力をなくすキャンペーンへの取り組みを始め、まずは、高校生・大学生の身の回りに起こりうるデート DV に焦点を当てたインターネットによる教材を開発した。今後、ガールスカウトとしてのアドボカシー活動へとなるよう発展させる予定である。
・グローバルアクションテーマに基づき、世界規模の課題に焦点を当てた活動を促進した。ガールスカウトギャザリングでの話し合いや、レンジャーキャンプでの活動により、少女自身が行動に移す力があるということに気づく体験の場を提供し、アドボカシー能力の向上の機会とした。

2．少女や若い女性、都道府県連盟、日本連盟による少女にとって重要な問題に対するアドボカシーの機会の増加

・2011 年に国連で制定された国際ガールズ・デーの第 1 回を記念し、国連広報センターとプラン・ジャパンと協力し開催したイベントで、若い会員による「少女に対する暴力をなくす」呼びかけを行った。

3．戦略的なパートナーシップを強化・発展し、ローカルからグローバルまであらゆるレベルで影響力を行使

・WAGGGS 理事の輩出、ミャンマーでのガールスカウト運動再興のための協力連盟になる、WAGGGS のプログラムの日本開催など WAGGGS、AP 地域への協力を強め、WAGGGS への影響力を増すことができた。
・日本国中の会員からワールドシンキングデイの寄付金が寄せられ、WAGGGS の相互援助計画による他国連盟の支援を行うことができた。

Ⅳ ガールスカウトで提供される経験内容の充実

1．ガールスカウト内外の資源の有効活用と 6 分野に基づいた運営基盤の強化

・世界連盟からのパートナーシップビジットを受け、提案されたことを基に、日本連盟の運営について見直しを行った。

2．ガールスカウト活動を支える成人の能力開発

・役職別研修は会員委員会及び組織・運営委員会を対象として行い、参加者が、会員増に向けて都道府県連盟で取り組むプランを立案し、実際に取り組みを進めている。

3．世界的な運動であることを生かしたさまざまな機会の提供

・引率者の渡航費補助を行うなど、少女の海外研修への機会を増やす努力を行っている。
・世界連盟 100 周年事業の一環としてアメリカで開催された少女のためのワー

ルドフォーラムへ 2 人の高校生を派遣した。

・世界連盟が開発したリーダーシップ開発プログラム（WLDP）を日本で開催し、22 カ国 24 人の青年とともに、日本から 18 人が参加した。さらに、26 人の日本の会員を対象に、世界連盟から派遣された講師によるプログラムを開催し、39 都道府県連盟の会員がこのプログラムに参加することができた。

Ⅴ あらゆる段階・場面でのリーダーシップ能力の向上

1．少女と若い女性が自分自身の能力を開発し、社会に影響を与えられるようになるための、リーダーシップ経験の提供

・上述の WLDP への参加を全都道府県連盟から得られるように働きかけ、39 都道府県連盟の会員が参加した。また、参加した会員が事後にリーダーシップ経験を発揮する場を確保するための企画をし、実施している。

2．都道府県連盟理事会の組織運営力とリスクへの対応強化支援

・連盟長会議、都道府県連盟への理事派遣、トレイナーセミナーの地区開催を通し、都道府県連盟理事会への支援を行った。

3．ノンフォーマル教育・リーダーシップおよび少女と若い女性にかかわる問題における先駆的な実践者としての社会的地位の確立

・少女と若い女性を取り巻く問題として「暴力」を取り上げ、内閣府男女共同参画推進連携会議などへ働きかけた。

・ガールスカウト内外を対象に調査を行い、ガールスカウトとして取り組むべき問題などを抽出し、先駆的な実践者としての社会的地位確立に向けての取り組みを始めた。特に、日本のガールスカウト教育を考える会では、ガールスカウトが女子の教育に取り組む理由を明らかにする研究に取り組み、中間報告としてフォーラムを開催した。

Ⅵ 資金調達の増強

1．多様な財源の確保

・新たな民間助成団体からの資金を得ることができた。

・WAGGGS および、ガールスカウト関連の支援団体からの資金を得ることができた。

2．財政基盤の確立

・賛助会員トレフォイルの会員増および、グレードアップを促進する活動に取り組み、目標を達成した。

・需品の頒布方法を多様にするために、都道府県連盟を経由せずに頒布する方法を導入した。

3．費用対効果の改善

・各事業は、ガールスカウト運動の目的を実現するためのものであることを確認し実施したことにより、費用対効果の改善を図ることができた。

次ページより、具体的活動を掲載します。

１．教育プログラム

◎

事業名	ガールスカウトギャザリング 地区大会	目標	Ⅲ-1、Ⅲ-2、Ⅴ-1

地区名・開催期日	会場	参加人数
北海道・東北地区 ＜担当：秋田県連盟＞ 8 月 10 日（金）～ 8 月 12 日（日）	秋田県 青少年交流センター	合計 82 人 シニア 32 人　レンジャー 19 人 成人 31 人
北関東地区 ＜担当：埼玉県連盟＞ 9 月 15 日（土）～ 9 月 17 日（月・祝）	国立女性教育会館	合計 120 人 シニア 58 人　レンジャー 30 人 成人 32 人
南関東地区 ＜担当：神奈川県連盟＞ 11 月 23 日（金）～ 11 月 25 日（日）	川崎市青少年の家	合計 127 人 ジュニア　25 人　シニア 57 人 レンジャー 26 人　成人 19 人
北陸・東海地区 ＜担当：福井県連盟＞ 8 月 17 日（金）～ 8 月 19 日（日）	奥越高原青少年自然の家	合計 126 人 シニア 57 人　レンジャー 30 人 成人 39 人
近畿地区 ＜担当：和歌山県連盟＞ 8 月 18 日（土）～ 8 月 19 日（日）	長居ユースホステル	合計 77 人 シニア 39 人　レンジャー 13 人 成人 25 人
中国・四国地区 ＜担当：広島県連盟＞ 9 月 16 日（日）～ 9 月 17 日（月･祝）	広島市三滝少年自然の家	合計 94 人 シニア 34 人　レンジャー 21 人 成人 30 人　一般 9 人
九州・沖縄地区 ＜担当：沖縄県連盟＞ 8 月 10 日（金）～ 8 月 12 日（日）	沖縄県立名護青少年の家	合計 93 人 シニア 47 人　レンジャー 21 人 成人 25 人

＜内容＞
・全国 7 地区でガールスカウトギャザリング地区大会が実施された。（各地区に助成）
・共通大会テーマを WAGGGS の GAT とし、分科会のテーマは 8 つのアドボカシーメッセージから少女実行委員会が決定した。
＜成果＞
・ガールスカウトギャザリングが具体的なアドボカシー活動（実際に行動するということ）につながるように進めていくという姿勢が見られた。
・運営面では、コア会議を実施することの意識が高まった。

事業名	レンジャーキャンプ	目標	Ⅴ-1
期日	8 月 3 日（金）～8 月 7 日（火）	会場	戸隠ガールスカウトセンター
参加人数	合計 129 人（レンジャー 112 人　成人会員 17 人）		

＜内容＞
・レンジャー育成目標に加え、「自分の力を発揮し、人に役立つ喜びを知ることで相手を受け入れる柔軟性ができ社会に影響を与えられる人になる」ことをねらいとして実施した。
＜成果＞
・参加者の自己評価からも 9 割以上の少女がキャンプをとおして「成長できた」と答えており、それぞれが今まで培ってきた野外技術や経験を全国の仲間とともに高め合うことができた。
・育成目標を意識してプログラムを工夫した結果、全体的にお互いを補うことが随所で見受けられ、また参加者の 9 割以上が「パトロールメンバーや他の参加者と十分に話し合い、運営ができた」と答えていることからコミュニケーションが図れた。
・「森のあそびばふれあいパーク」や「ミセス･ウェストン祭」をとおして、ガールスカウトの技術を生かし人に役立つことを実施したことで、参加者の 8 割以上が人に役立つということを実感した。

事業名	ふれあいの日	目標	Ⅲ-1、Ⅲ-2、Ⅴ-1
期日	5 月 19 日（土）または 20 日（日）		
参加者	全会員・一般		

＜内容＞
・テーマを girls worldwide say“私たちは地球を救える”（ワールドシンキングデイのテーマと同じ）とし、全国各区地で実施された。
＜成果＞
・それぞれの地域の特性を取り入れ、エコへの取り組みや震災のそなえに関する活動が各地で展開された。
・日本全国の各地で、少女と若い女性が中心となって、同じテーマのもとで一斉にイベントが行われたことは、ガールスカウト運動を広く社会にアピールすることにつながった。

◎

事業名	都道府県連盟が実施する国際理解研修､海外派遣担当者研修への講師派遣	目標	Ⅳ-2、Ⅳ-3
実績	実施件数　0 件		

◎

事業名	海外研修都道府県連盟派遣事業補助	目標	Ⅳ-3

＜実績＞
・前期 4 連盟 4 件、後期 1 連盟 1 件の応募があり、全 4 連盟 5 件のプログラムに渡航費補助を行い、65 人が海外研修に参加した。
＜成果＞
・　引率リーダーの渡航費を補助することで、新たに海外研修に挑戦する連盟があった。より多くの連盟が海外研修の実施が行われるよう引き続き呼びかける。

事業名	ワールドシンキングデイ	目標	Ⅲ-1、Ⅴ-1
テーマ	テーマ：MDG4：一緒になら子どもたちの命を救える MDG5：すべての母親の命と健康は尊い		
期日	平成 25 年 2 月 22 日（金）周辺		
参加者	全会員・一般		

＜内容＞

・ワールドシンキングデイのテーマ「girls worldwide say “一緒になら、子どもたちの命を救える”」、「girls worldwide say “すべての母親の命と健康は尊い”」について 9 月に発信した。

・「WAGGGS ワールドシンキングデイ アクティビティパック 2013」から得た情報を基に、「ワールドシンキングデイ 2013 活動パック」を作成。このパックに掲載している活動のヒントから行動に移すことができるように 2 月に発信した。（WAGGGS からの発信は、11 月 28 日。）指導者向けには、この活動パックをワールドシンキングデイだけではなく、集会や日常活動のヒントとしても利用してほしいことを記載し発信した。

事業名	世界連盟「GWF」への派遣	目標	Ⅲ-1、Ⅳ-3、
期日	7 月 12 日（木）～7 月 16 日（月・祝）	会場	アメリカ　シカゴ
参加者	14 歳～18 歳（参加時）2 人、引率リーダー　1 人		

＜内容＞

・ 世界のガールスカウト運動 100 周年 89 カ国 500 人のガールガイド・ガールスカウトが参加し、国連ミレニアム目標について学ぶと共に、リーダーシップやアドボカシーに関するセッションを体験した。

＜成果＞

・ 所属連盟、北陸東海地区ギャザリング、レンジャーキャンプで活動報告を行い、他のガールスカウトに良い刺激を与えた。

備考	GWF= Girls World Forum　WAGGGS100 周年関連事業

事業名	ピースプロジェクト“Greener × Greener”	目標	Ⅲ-1、Ⅲ-3、Ⅳ-3
期日	年間		
内容	・国内における環境保全活動 「こんな活動／集会をしました！活動おしらせシート」による報告件数：17 件 ・バングラデシュ難民キャンプ（2 箇所）においての活動と今後にむけての調査 期日：平成 25 年 1 月 12 日（土）～1 月 20 日（日） 派遣者：成人会員 3 人、職員 1 人		
備考	MDG7：環境の持続可能性の確保 MDG8：開発のためのグローバル・パートナーシップの推進		

事業名	団キャンプ支援事業	目標	Ⅴ-1、Ⅵ-2
期日	第 1 回：7 月 29 日（日）～31 日（火） 第 2 回：8 月 26 日（日）～28 日（火）	会場	戸隠ガールスカウトセンター
参加人数	第 1 回　合計 46 人（少女 34 人　指導者 12 人／ 6 連盟 8 ヵ団）		

	第 2 回　合計 52 人（少女 35 人　指導者 17 人／ 6 県連盟 8 ヵ団）
＜内容＞ 戸隠での野外活動を満喫できるよう、設営・星のプログラム・野外料理・クラフト・キャンプファイアー・徹営などを行った。また、マナー向上のプログラムやセンターの「チャンス！チャンス！」の実践も行なった。	

事業名	戸隠ガールスカウトセンター夏期プログラム	目標	Ⅴ-1、Ⅵ-2
期日	7 月 20 日（金）～8 月 31 日（金）	会場	戸隠ガールスカウトセンター
参加人数	宿泊利用：1,783 人（のべ宿泊人数 4,921 人） 日帰り利用：373 人		

事業名	少女に対する暴力をなくすキャンペーン（STV）	目標	Ⅲ-1、Ⅲ-3、Ⅳ-3
＜内容＞ ・シニア、レンジャー、25 歳までの成人会員を対象とした STV プログラムを開発。 ・レンジャーキャンプを始め、本部事業・県連盟事業において可能な範囲で STV について発信してきた。平成 24 年度中に 10 カ所でガールスカウト会員外も含む約 950 名に、STV について伝えた。			
備考	GAC（Global Advocacy Campaign=End Violence Against Girls）から STV（STOP THE VIOLENCE ）に名称変更		

事業名	国際ガールズ・デー	目標	Ⅲ-1、Ⅲ-3、Ⅳ-3
期日	10 月 8 日（月・祝）	会場	国連大学ウ・タントホール（3F）・国連大学前広場
<内容> ガールスカウト日本連盟、国連広報センター、プラン・ジャパンと共催し、実施した。STV 委員 3 名が「女の子のつくる暴力のない世界」をテーマにプレゼンテーションを行い、ガールスカウト運動やガールスカウトの取り組む STV キャンペーンについて広く発信した。			

事業名	『Girl Scouting』の発行	目標	Ⅲ-1、Ⅳ-2、Ⅱ-2
部数	№34 10,400 部　№35 10,000 部　№36 10,200 部		
＜内容＞ ・表紙をイメージチェンジし、新公益法人の新しいイメージを印象付けた。 ・少女が読みやすいよう、全ページのタイトルにふりがなをふり、興味を引き付ける見出しを工夫した。 ・年間を通して東日本大震災支援プロジェクトや Greener×Greener の活動事例を掲載し、部門ページでは GAT テーマに沿った内容で集会に取り組むヒントを提供した。 ・情報特派員の掲載数を増やし、多くの会員の活動を掲載した。			

委員会名	教育活動委員会	目標	Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ
開催回数	年 4 回開催		

事業名	日本のガールスカウト教育を考える会における研究	目標	Ⅳ-2、Ⅴ-1、Ⅴ-3

研究成果の報告と、社会に対する発信のためフォーラムを開催した。
＜内容＞
期日：平成25年3月24日（日）
会場：国立オリンピック記念青少年総合センター
参加者：106人　(成人会員　83人　一般　23人)
名称：女の子を育てるフォーラム
　　「女の子はもっと伸びる。未来を担う少女たちに今、必要なチカラと環境」
・基調講演『女性グローバル人材を育てるには』　昭和女子大学学長　坂東眞理子氏
・調査報告『女子だけで活動をおこなう意味』　ガールスカウト日本連盟理事　河合千尋
・スペシャルメッセージ（録画）　　衆議院議員　小池百合子氏
・パネルディスカッション
「“女性”への教育は、どのように変わってきたか、そして」
　　十文字学園女子大学教授/日本女性学習財団理事　亀田温子氏
「壁を作らず　のびのびと可能性を育むために“女性キャリア”について」
　　聖徳大学教授/取手聖徳女子中学校高等学校校長　長野雅弘氏
「Why Girl Scouting is “Girl”Scouting？～どうして“ガール”スカウトなのか？～」
　　ガールガイド・ガールスカウト世界連盟理事　和田照子
総合司会、コーディネーター：平松由美
＜成果＞
・女の子、女性をテーマに取り上げたことにより、ガールスカウト運動について、内外からの参加者の理解を深めることができた。
・このようなフォーラムを行うことにより、成人会員が、ガールスカウト運動の目標や目的の見直しや、少女たちと関わる指針を持つことができた。

２．成人のトレイニング

事業名	トレイナーセミナー	目標	Ⅳ-2
地区名・開催期日	会場	参加人数	
北海道・東北地区 ＜担当：宮城県連盟＞ 10 月 6 日（土）～ 10 月 7 日（日）	仙台ガーデンパレス	合計 22 人 うち県連盟役員　1 人 実行委員 8 人 うち県連盟役員　1 人	
北関東地区 ＜担当：新潟県連盟＞ 10 月 27 日（土）～ 10 月 28 日（日）	メイワサンピア	合計 23 人 うち県連盟役員　5 人 実行委員 14 人 うち県連盟役員　4 人	

南関東地区 ＜担当：山梨県連盟＞ 11 月 17 日（土）～ 11 月 18 日（日）	富士吉田市立 青少年センター	合計 31 人 うち県連盟役員 10 人 実行委員 13 人 うち県連盟役員 3 人
北陸・東海地区 ＜担当：愛知県連盟＞ 11 月 10 日（土）～ 11 月 11 日（日）	愛知県青年会館 ウィルあいち	合計 28 人 うち県連盟役員 5 人 実行委員 8 人 うち県連盟役員 1 人
近畿地区 ＜担当：大阪府連盟＞ 12 月 1 日（土）～ 12 月 2 日（日）	KOKOPLAZA	合計 34 人 うち県連盟役員 5 人 実行委員 10 人 うち県連盟役員 2 人
中国・四国地区 ＜担当：岡山県連盟＞ 11 月 23 日（金・祝） ～11 月 24 日（土）	西大寺緑化公園 百花プラザ	合計 23 人 うち県連盟役員 7 人 実行委員 13 人 うち県連盟役員 3 人
九州・沖縄地区 ＜担当：宮崎県連盟＞ 平成 25 年 1 月 26 日 （土）～1 月 27 日（日）	フェニックス・ シーガイア・リゾート	合計 22 人 うち県連盟役員 14 人 実行委員 10 人 うち県連盟役員 5 人

＜内容＞

全国 7 地区での開催は 3 年目となった。初回に全体の第 1 回実行委員会をガールスカウト会館で開催し、各地区から実行委員長が参加した。

【テーマ】「一人ひとりが、ガールスカウトのチカラを地域に発信する責任者となるために」

単元Ⅰ（2 時間以上）日本連盟と世界連盟

単元Ⅱ（4 時間以上）ガールスカウトの運動推進のために

単元Ⅲ（2 時間以上）ガールスカウトと現代社会

＜成果＞

・初回の実行委員会として、各地区の実行委員長を東京に集め、方針の共有を行ったことで日本連盟事業を実施するという意識が高まり、効果があった。

・地区で行うことにより多くのトレイナーが出席もしくは、企画・運営に関わった。

・3 年間各地区で実施したことにより、多くのトレイナーが、実行委員を経験することができた。

・同時に指導者研修を開催した会場も見られた。日本連盟理事の話を直接聞く機会として指導者研修単元取得にもつながった

事業名	ガールスカウトトレイナー 認定講習会・審査会	目標	Ⅳ-2
期日	平成 25 年 1 月 13 日（日）～1 月 14 日（月・祝）		
会場	国立オリンピック記念青少年総合センター		
参加者	プログラムトレイナー　9 人（7 県連盟）		
結果	認定者　9 人（7 県連盟）		

＜内容＞ ・ガールスカウトトレイナーとしての任務、役割を理解し、心構えを学ぶ。 ・組織運営について理解し、ガールスカウトの組織の運営に携わる人に対する研修についての理解を深め、実践できるようにする。 ＜成果＞ ・参加者 9 名全員をガールスカウトトレイナーとして認定した。

事業名	プログラムトレイナー認定審査会	目標	Ⅳ-2
期日	第 1 回：8 月 25 日（土） 第 2 回：平成 25 年 1 月 12 日（土）	会場	第 1 回大阪　KOKOPLAZA 第2回　東京　ガールスカウト会館
参加人数	トレイナー候補者　① 6 人（4 県連盟）②　14 人（7 県連盟）		
＜結果＞ ①合格者 6 人（4 県連盟）　不合格者 0 人 ②合格者 11 人（7 県連盟）　不合格者 3 人（2 県連盟）			

◎

事業名	野外研修の推進	目標	Ⅳ-2
＜内容＞ ・少女の野外活動を推進するために、指導者の野外技術の向上を目的とする研修を地区単位で行うための助成を行った。 ＜実施連盟と参加人数＞ ・福岡県連盟 4/28-29　6 人 ・青森県連盟 7/21-22　14 人 ・中国・四国地区シニアキャンプ大会（山口県連盟）8/3-5　32 人 ・大阪府連盟 9/15-16　12 人 ・九州・沖縄地区指導者研修会（鹿児島県連盟）10/13-14　57 人 ・中国・四国地区指導者研修会（島根県連盟）10/27-28　21 人 ・北陸・東海地区指導者研修会（富山県連盟）10/27-28　37 人			

※新

事業名	WLDP（日本開催）	目標	Ⅲ-1、Ⅲ-3、Ⅳ-3、Ⅴ-1
期日	①WLDP 10 月 3 日（水）～7 日（日） ②日本連盟のための研修 10 月 7 日（日）～8 日（月・祝）	会場	国立オリンピック記念青少年総合センター
参加人数	①WLDP　42 人（外国連盟 24 人　日本連盟 18 人（17 県連盟）） ②日本連盟のための研修　26 人（日本連盟 24 連盟） 講師：WAGGGS 認定講師 9 人		
＜内容＞ ①WAGGGS 開発のリーダーシップ開発セミナーを日本で開催した。 ②WAGGGS が認定した WLDP 講師による日本連盟のためのリーダーシップセミナー			
備考	WAGGGS Leadership Development Program（世界連盟リーダーシップ開発プログラム）		

事業名	国際プログラムへの成人の派遣 ヘレンストローセミナー	目標	Ⅳ-3
期日	平成 25 年 3 月 16 日（土）～3 月 24 日（日）		
会場	アワシャレー　ワールドセンター		
参加者	成人会員 1 人		

＜内容＞
・24 カ国 28 人の若い会員が参加し、「環境にやさしい未来へ導く若い女性」をテーマに WLDP を用いたトレイニングが行われた。
＜成果＞
・参加者がリーダーシップのあり方について理解を深めることができた。

事業名	国際プログラムへの成人の派遣 資金調達に関するワークショップ	目標	Ⅳ-3
期日	7 月 4 日（水）～7 日（土）		
会場	マレーシア・クアラルンプール		
参加者	成人会員 2 人		

＜内容＞
・加盟連盟の資金調達能力を向上させるために、資金調達のプロフェッショナルである Resource Alliance 主催の IWRM（International Workshop on Resource Mobilisation）に AP 地域の加盟連盟代表者が参加した。そこで得たスキルやガールスカウト団体以外とのネットワーク等を活用することによって、各連盟の資金調達を成功へ導くことをねらいとする。
＜成果＞
・本ワークショップでの成果をいかし、広報戦略の策定をし、日本連盟の対外的な発信内容の強化に取り組んでいる。

事業名	『ガールスカウトマガジン OLAVE』の発行	目標	Ⅱ-2、Ⅳ-2、
部数	№20　5,800 部　　№21　5,800 部		

＜内容＞
・表紙と誌面レイアウトを変更し、読みやすさを工夫した。
・平成 24 年度世界連盟・日本連盟の方針の紹介、ガールスカウトの基礎的な知識、組織拡充、東日本大震災支援プロジェクト、ピースプロジェクト Greener×Greener などについて、具体的なヒントとなる内容を掲載した。
・教育活動委員会・日本のガールスカウト教育を考える会・STV キャンペーン委員会など、委員会が研究した内容を伝えた。
・日本連盟の取り組みを紹介する機関誌として、関係各所へ配布した。

事業名	指導者の派遣	目標	Ⅳ-2

＜実績＞
①リーダー養成講習　　派遣回数 8 回　（うち派遣チーム 2 回）
②指導者研修　派遣回数 2 回　（うちリーダー養成講習と同時開催 1 回）

備考	トレイナー不在連盟等へリーダー養成講習・指導者研修実施のためのトレイナーの派遣

◎

事業名	若い女性の自主的活動の促進	目標	Ⅳ-2、Ⅴ-1
＜内容＞ 国内交流事業として通知することにより、事業開催のための支援を行った。			

※

事業名	リーダー養成講習・指導者研修	目標	Ⅳ-2
期日	年間	会場	全国
＜内容＞ 全国都道府県連盟でリーダー養成講習及び指導者研修を実施した。			

資料名	トレイナー通信の発行	目標	Ⅳ-2
発行部数	年 3 回　メール配信・ホームページ公開		

資料名	トレイナー名簿	目標	Ⅳ-2
部数	350 部		

委員会名	指導者委員会	目標	Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ
開催回数	年 4 回開催		

３．組織と運営

名称	世界連盟 PV（パートナーシップビジット）2012	目標	Ⅳ-1
期日	7 月 17 日（火）～7 月 21 日（土）		
＜内容＞ ・ AP 地域委員ノルマラ氏と AP 地域ディレクター チン氏を迎え、日本連盟の現状について報告し、改善のための提案を受け、それに基づき行動計画を検討した。 ＜成果＞ ・日本連盟の取り組むべき課題、すべきことが明確になった。 ・宮城県連盟、大阪府連盟への訪問プログラムを実施し、AP 委員・スタッフから会員が直接話しを聞く機会を設けることができた。			

事業名	組織拡充のための理事等派遣	目標	Ⅳ-2
実績	県連盟への派遣 6 回。		
＜内容＞ 日本連盟理事から直接日本連盟の方針や進むべき道、国際的視野にたったプロジェクトについての話を聞き、活動の意義についての理解を深め、スカウトとしての意識を高めることが出来た。			

事業名	都道府県連盟の組織強化支援	目標	Ⅴ-2
＜内容＞ 一般社団法人として設立する連盟への支援を行い、2 県連盟が一般社団法人となった。			

新

事業名	都道府県連盟への PV 実施準備	目標	Ⅴ-2
内容	組織・運営委員会において平成 25 年度より実施できるよう検討をした		

会議名	公益社団法人移行記念祝賀会	目標	Ⅴ-3
期日	5 月 19 日（土）	会場	ガールスカウト会館
参加人数	合計 115 人 内訳：来賓 51 人（行政、議員連盟、他団体、企業、評議員・元評議員、寄付者、元理事、監事・顧問） ガールスカウト関係 64 人（都道府県連盟 53 人、理事・委員 11 人） （ほかボランティアスタッフ 15 人）		

会議名	理事連絡会	目標	Ⅳ-1
開催日	4 月 22 日（日）・6 月 3 日（日）・ 7 月 8 日（日）・9 月 17 日（月・祝）・ 12 月 9 日（日）・ 平成 25 年 1 月 20 日（日）・3 月 10 日（日）	会場	ガールスカウト会館

会議名	理事研修	目標	Ⅳ-1
期日	9 月 15 日（土）～9 月 16 日（日）	会場	ガールスカウト会館
＜内容＞ ・AP 地域とアラブ地域のトレイナーのためのトレイニング・ワークショップ報告 ・International Workshop on Resource Mobilization (IWRM) Asia 2012 報告 ・PV2012 を受けての検討 ・目標と戦略の見直し、重要事項の検討 ・平成 25 年度事業計画（案）について ・都道府県連盟訪問事業について			

会議名	評議員会	目標	Ⅳ-1
期日	12 月 8 日（土）	場所	ガールスカウト会館
＜内容＞ ・平成 24 年度日本連盟事業中間報告について ・平成 25 年度事業計画（案）について ・平成 25 年度予算（案）の概要について			

会議名	顧問会	目標	Ⅳ-1
期日	10 月 13 日（土）	会場	ガールスカウト会館

＜内容＞
・PV2012 について ・WLDP について ・国際ガールズ・デーについて ・ボーイスカウトとの関係の過去の経緯と今後について ・若い女性を教育対象として捉えることについて

会議名	連盟長会議	目標	Ⅳ-1
期日	11 月 3 日（土）～11 月 4 日（日）	会場	国立オリンピック記念青少年総合センター
＜内容＞ 47 都道府県連盟すべての代表の参加があった。 ・平成 24 年度上半期事業報告 ・AP 地域の PV（パートナーシップビジット）を受けて ・会員増を目指して 1　「元気な団」 ・会員増を目指して 2　「各都道府県連盟　活性化のために」 ・会員増を目指して 3　「日本連盟からの提案『ともだち増やそう作戦』」 ・会員増を目指して 4　「ホームページ・ブログ・Facebook の活用と効果的な写真・メッセージの発信」 ・第 11 回 AP 地域会議について ・平成 25 年度事業計画（案）について ・平成 25 年度都道府県連盟訪問事業について ・新公益法人への移行　その後について ・ガールスカウトと女子教育			

名称	学識経験者・評議員等による事業等の評価	目標	Ⅲ-3
＜内容＞ レンジャーキャンプへの視察をしていただいた。			

名称	役職別研修　会員/組織・運営委員長研修会	目標	Ⅲ-3
期日 参加人数	10 月 27 日（土）～28 日（日）　1 泊 2 日 59 人（38 都道府県連盟）		
＜内容＞ ・ガールスカウト運動活性化のため運営能力の向上を目的に行い、研修時間の中で、連盟役員として情報を共有し、他の役員・委員会と連携していく意識を高めていくこと、それぞれの連盟で抱えている課題が解決していけるようにした。 ・研修の中で「会員減少は会員委員会、組織・運営委員会だけの問題ではなく、各委員会で連携をとり、県連盟一丸となって取り組んでいく必要があること。」「団を支援するのが県			

連盟の役目であることを強く意識し、団と県連盟が同じ思いを持って会員増に取り組めるように団支援をする。」ことを確認した。 ・研修での気づきなどを都道府県連盟アクションプランに活かす予定。

委員会名	組織･運営委員会	目標	Ⅰ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ
開催回数	年 4 回開催		

事業名	日本連盟重要事項検討委員会における研究	目標	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ
開催回数	14 回実施		
＜内容＞ ・WAGGGS からのパートナーシップビジットを受け、日本連盟の方針及び戦略を検討し、理事会へ提言した。			

事業名	事務局の強化	目標	Ⅲ-3
＜内容＞ ・理事による事務局改革ワーキンググループでの検討結果を受け、強い事務局となるための取り組みを始めた。			

４．社会との関係

事業名	ガールスカウトのＰＲ	目標	Ⅱ-1、Ⅱ-2
＜内容＞ ・公益社団法人への移行を機に、タグライン「生きるが育つ　ガールスカウト」を作成し、内外へ PR した。 ・環境省とのタイアップ企画で、映画ポスターの掲出を行った。 ・公益社団法人としてのガールスカウト日本連盟の役割を果たせる、広報戦略の策定にとりかかった。			

事業名	社会との連携	目標	Ⅱ-2、Ⅲ-3、Ⅴ-3
＜内容＞ ・十文字女子学園大学との連携により、戸隠ガールスカウトセンター夏期プログラムのスタッフとしての活動が社会奉仕活動の単位として認定された。 ・内閣府男女共同参画推進連携会議の議員としての活動を活発におこなった。 ・国連広報センター、プラン・ジャパンとともに第 1 回国際ガールズ・デーのイベントを実施し、日本社会へ「女の子のエンパワーメント」の重要性を訴えた。 ・STAND UP TAKE ACTION への参加を広く呼びかけ、全国で取り組んだ。			

※

事業名	東日本大震災支援プロジェクト	目標	Ⅲ-1、Ⅴ-1
事業詳細			
事業名	いきるちからキャンプ		
期日	8 月 10 日（金）～8 月 12 日（日）	会場	国立花山青少年自然の家

参加人数	合計 138 人（小学生 127 人　中学生 11 人　スタッフ　68 人）

＜内容＞

・参加者 5～6 人のグループに高校生・大学生年代のグループリーダーを配置し、グループ活動を主軸に以下のプログラムを実施。

1 日目：開会式・グループタイム

2 日目：ポイントラリー・キャンプファイアー

3 日目：記念品づくり・ふりかえり・閉会式

＜成果＞

・昨年度に続き、2 回目の実施となった本事業は、募集定員 100 名を大幅に上回る応募をいただき、このような事業の需要の高さを感じた。子どもたちは日常から離れ、国立花山青少年自然の家の豊かな自然を満喫し、グループのメンバーやリーダーと寝食を共にし、伸び伸びと活動していく中で、「いきるちから」を育むことができた。

・事業の実施に際しては、基本的に通信のみで事業構築を行い、事前の打合せのための会合を持つ形式はとらなかった。このような事業実施方法を他の事業にも取り入れられるよう今後検討をすすめる。

事業名	ガールスカウトキャラバン
期日 会場 参加者	第 1 回　9 月 29 日（土）松長近隣公園応急仮設住宅第 2 集会場 6 人 （児童 3 人　成人 3 人　公募スタッフ 2 人） 第 2 回　9 月 30 日（日）笹谷東部応急仮設住宅集会所 17 人（児童 12 人　成人 5 人 公募スタッフ 2 人） 第 3 回　12 月 16 日（日）郡山市民交流プラザ 56 人（児童 41 人　成人 15 人 公募スタッフ 3 人） 第 4 回　平成 25 年 1 月 6 日（日）塩釜市伊保石地区仮設集会場・雲上寺 75 人（児童 51 人　成人 24 人 公募スタッフ 3 人） 第 5 回　平成 25 年 2 月 16 日（土）～17 日（日）国立磐梯青少年交流の家 19 人（児童のみ 公募スタッフ 3 人） 第 6 回　平成 25 年 2 月 24 日（日）仙台市市民活動サポートセンター 51 人（児童 34 人　成人 17 人 公募スタッフ 2 人） 第 7 回　平成 25 年 3 月 10 日（日）いわて県民情報センター「アイーナ」 78 人（児童 52 人　成人 26 人 公募スタッフ 3 人）

＜内容＞

・仮設住宅に居住している、もしくは周辺の児童へのプログラム提供

・県連盟事業へのヤングリーダー派遣とプログラムの提供

事業名	防災スキルアップ認定証
頒布数	73 セット

＜内容＞

ガールスカウトバッジや部門バッジを防災の観点から再度チャレンジし認定証につなげる。

事業名	県連盟事業支援
実績	・岩手県連盟主催平成 24 年度　ふれあいの日

＜内容＞

県連盟事業を実施するために必要な経費補助（主にバス借り上げ代）

事業名	全国大会助成金
実績	・平成 24 年度レンジャーキャンプ（宮城県連盟） ・平成 24 年度 WLDP（岩手県連盟、宮城県連盟）
＜内容＞ 被災地域から日本連盟主催事業への参加者については、交通費および参加費を日本連盟が負担する。	
事業名	登録費補助
実績	・全額補助　岩手県 34 人、宮城県 63 人、千葉県 6 人 ・半額補助　福島県 280 人
＜内容＞ 3 県連盟の要望にあわせ、県連盟ごとに対応し、登録費の全額補助および半額補助をした。またスカウト保険についても日本連盟負担した。	
平成 24 年度に寄せられた支援金総額　　1,852,676 円	

資料名	アニュアルレポート（年次報告書）	目標	Ⅱ-2
部数	8,000 部		

事業名	ホームページ作成・運営	目標	Ⅱ-1、Ⅱ-2
更新回数	184 回　（訪問数 169,629 人）		

資料名	メールマガジンの発行	目標	Ⅱ-1、Ⅱ-2
発行回数	隔週ならびに臨時発行　　33 回（登録人数　1,762 人）		

資料名	2013 年カレンダー	目標	Ⅱ-2
部数	10,700 部		

事業名	ミセス・ウェストン祭	目標	Ⅱ-2、Ⅲ-3
期日	8 月 4 日（土）	会場	ミセスウェストンパーク （長野市戸隠）
参加人数	レンジャースカウト 21 人		
＜内容＞ レンジャーキャンプ期間中に開催されたため、参加者から奉仕希望者を募り、旗の掲揚･献花･歌を担当し、奉仕の機会となった。			

委員会名	社会との関係委員会	目標	Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ
開催回数	年 4 回開催		

委員会名	AP 地域会議準備委員会	目標	Ⅲ-3、Ⅳ-3
開催回数	年 3 回実施		
＜内容＞ ・AP 地域会議期間中、日本連盟が担当するプログラム、および会議の運営組織作りについ			

て検討した。 ・日本連盟会員用に AP 地域会議のホームページの作成、アジア太平洋地域会議バッジおよびその活動パックの作成を行った。また、AP 地域会議に関わる少女会員・成人会員のボランティアを募集した。 ・AP 地域会議関連グッズについて企画を行った。

５．会員

資料名	入会案内用資料作成	目標	Ⅰ-1
実績	チラシ「○○○ができるようになったよ」　100,000 部 チラシ「ようこそおともだち」　80,000 部		

新 事業名	新しい活動形態の導入	目標	Ⅰ-1
＜内容＞ 学校での活動を検討したが、導入には至らなかった。			

新 事業名	会員データベース活用による会員増強	目標	Ⅰ-1、Ⅰ-2、Ⅰ-3
＜内容＞ 会員データベースの構築を行った。今後の活用については、随時検討の予定である。			

委員会名	会員委員会	目標	Ⅰ
開催回数	年 4 回開催		

6. 財政

事業名	ガールスカウト会館の管理運営	目標	Ⅵ-2

事業名	戸隠ガールスカウトセンターの管理運営	目標	Ⅵ-2

事業名	各種制定品の見直し･魅力ある製品の開発	目標	Ⅵ-2

会議名	賛助会員トレフォイルの集い	目標	Ⅵ-1、Ⅵ-2
期日	9 月 29 日（土）	会場	ガールスカウト会館
参加者	トレフォイルの集い 26 人　　岩田喜美枝氏講演会　48 人		
＜内容＞ 第 1 部　トレフォイルの集い ・日本連盟事業報告およびトレフォイル会計報告、意見交換、懇親。 ・新規会員およびグレードアップ会員への会員証・会員ピンの授与。 第 2 部　岩田喜美枝氏 講演会 テーマ：女性が社会で活躍するということ－より社会を元気に、より人生を豊かに－			

事業名	戸隠ガールスカウトセンター 春期・秋期利用	目標	VI-2
＜期日・利用者数＞ 春期：4月28日（土）～7月16日（月）　　秋期：9月1日（土）～11月5日（月） 宿泊利用　280 人（のべ 374 人）　　日帰り利用　145 人			

委員会名	財政委員会	目標	VI
開催回数	年 4 回開催		

事業名	需品頒布の新システム構築に関する研究	目標	VI-2
＜内容＞ 団から直接注文を受けるシステムを導入し、その利便性を高めるための研究を行った。			

７．目的を達成するために必要なその他の事業

新	事業名	団を対象とした調査の実施
	＜内容＞ 全団を対象とした団の活動、運営等にかかわる調査を行った。回答数 320 ヵ団（3 月末現在）	

会議名	第 84 回定時総会	目標	VI-1、VI-2
期日	5 月 19 日（土）	会場	ガールスカウト会館
＜内容＞ 第 1 号議案　平成 23 年度事業報告（案）について 第 2 号議案　平成 23 年度決算報告（案）について 第 3 号議案　平成 25・26 年度役員選出のための役員選出委員会委員の選出について			

会議名	理事会		
開催回数	年 5 回開催	会場	ガールスカウト会館
＜内容＞ 「理事会議題一覧」を参照			

会議名	監査		
期日	4 月 21 日（土）	会場	ガールスカウト会館
＜内容＞ ・平成 23 年度事業報告について ・平成 23 年度決算について			

平成 24 年度民間助成金

事業名称	助成団体
WLDP（日本開催）	（社）霞会館
	（社）東京倶楽部
	国際スカウト･ガイド財団
	オレブ ベーデン-ポウエル ソサエティ
	ガールガイド・ガールスカウト世界連盟 AP 友の会ベネフィット
海外研修支部派遣事業補助 国際プログラムへの成人の派遣	（社）霞会館
	ガールガイド・ガールスカウト世界連盟
東日本大震災支援プロジェクト	（社福）中央共同募金会
	（独）国立青少年教育振興機構

平成 24 年度世界連盟への寄付

基金名	金　額	備考
国際友愛基金	2,498,010 円	
相互援助計画のための基金	973,449 円	支援プロジェクト未定
サンガム指定寄付金	253,739 円	

理事会議題一覧

開催日	主な内容
4 月 22 日（日）	・平成 24 年度常置委員会への委任事項について ・ピースプロジェクト Greener×Greener 難民キャンプが もっと緑豊かになるための Greener プログラムについて ・平成 23 年度（社）ガールスカウト日本連盟表彰について ・平成 23 年度事業報告（案）および平成 23 年度決算報告（案）について ・第 84 回定時総会での会員数に関する表彰について ・第 84 回定時総会での都道府県連盟への感謝状贈呈について ・第 84 回定時総会について ・公益社団法人移行に伴う規程について ・役員賠償責任保険への加入について
7 月 8 日（日）	・PV2012 について ・平成 24 年度連盟長会議について ・正会員（都道府県連盟）の定款の承認について ・日本連盟が行うべき調査について
10 月 14 日（日）	・役員選任規程の改定について ・「ともだち増やそう作戦」について ・平成 25 年度事業計画（案）について ・県連盟 PV（仮称）について ・平成 24 年度評議員会について ・正会員（都道府県連盟）の定款の承認について ・仮称　戦略検討委員会の設置について ・広報アドバイザーの委託について ・平成 25・26 年度常置委員会委員について
平成 25 年 1 月 20 日（日）	・重要事項検討委員会：報告および検討事項 ・平成 25 年度役員候補者-外部監事-について ・平成 24 年度補正予算について ・平成 25 年度事業計画・予算について ・平成 25 年度常置委員会委員について ・事務局に関する諸規程について ・平成 24 年度（公社）ガールスカウト日本連盟表彰－功労章－について ・平成 25 年度外部監査人の委託について ・事務局長人事について

開催日	主な内容
平成 25 年 3 月 10 日（日）	・東日本大震災支援プロジェクトチーム：平成 24 年度プロジェクト報告および提案 ・ピースプロジェクト Greener×Greener について ・重要事項検討委員会：報告および検討事項 ・平成 24 年度補正予算について ・平成 25 年度事業計画・予算について ・役員選挙管理規定の改訂について ・第 85 回定時総会における選挙管理委員について ・第 85 回定時総会について ・平成 25 年度理事会・理事研修会について ・平成 24 年度（公社）ガールスカウト日本連盟表彰について ・「国連 NGO 国内婦人委員会」への加入について ・ソロモン諸島の地震および津波被害への災害等救済見舞金について

叙勲・褒章・大臣表彰　受章者

旭日双光章	白　石　敏　子	東京都第217団
瑞宝双光章	森　山　公　子	栃木県第3団
瑞宝双光章	吉　田　健　三	奈良県第52団
瑞宝単光章	稲野邉　菊　枝	茨城県第29団
緑綬褒章	日立市森林愛護隊 ＊茨城県第10団と15団とボーイスカウトの会員により構成され、緑の募金・植樹・地域でのボラティア活動を40年継続	
内閣府特命大臣表彰 （社会貢献青少年表彰）	ピースメッセンジャー ＊過去のミャンマー・スタディツアー参加者で構成され、様々な平和提唱運動を展開	
文部科学大臣表彰 （社会教育功労）	阿久津　静　子	千葉県第8団
文部科学大臣表彰 （社会教育功労）	宮　﨑　昭　子	長野県第25団
文部科学大臣表彰 （社会教育功労）	新　家　庸　子	大阪府第11団
文部科学大臣表彰 （社会教育功労）	竹　山　早　穂	和歌山県第4団
文部科学大臣表彰 （社会教育功労）	大　井　　緑	愛媛県第19団
厚生労働大臣福祉功労表彰	千葉県第34団 ＊永年の共同募金活動	

平成 24 年度　日本連盟表彰

功　労　章	桐　章	15 名
	菊　章	16 名
	梅　章	23 名
永続奉仕章	60 年	3 名
	50 年	11 名
	40 年	81 名
	30 年	184 名
	25 年	229 名
	20 年	289 名
	10 年	504 名
団 永 続 章	60 年	2 カ団
	50 年	20 カ団
	40 年	32 カ団
	30 年	37 カ団
	25 年	10 カ団
	20 年	11 カ団
	10 年	2 カ団

平成24年度都道府県別登録状況

平成25年3月31日現在

都道府県連盟名	団数	少女会員						成人会員							総合計
									運営員		SCAPP		計		
		ﾃﾝﾀﾞｰﾌｯﾄ	ﾌﾞﾗｳﾆｰ	ｼﾞｭﾆｱ	シニア	ﾚﾝｼﾞｬｰ	計	ﾘｰﾀﾞｰ	全体	内男性	全体	内男性	全体	内男性	
北海道	21	5	94	75	60	40	274	97	128	3	85	1	310	4	584
青森県	8	6	20	32	29	16	103	35	41	1	42	5	118	6	221
岩手県	12	0	25	48	23	17	113	34	47	1	38	2	119	3	232
宮城県	16	2	24	31	36	31	124	57	72	1	76	1	205	2	329
秋田県	4	0	7	12	11	3	33	10	17	0	13	0	40	0	73
山形県	10	2	20	50	36	34	142	49	48	2	31	0	128	2	270
福島県	14	4	28	44	23	17	116	57	56	4	51	0	164	4	280
茨城県	35	19	135	183	135	68	540	192	385	5	176	2	753	7	1,293
栃木県	18	2	70	101	54	41	268	74	109	4	101	6	284	10	552
群馬県	55	7	168	207	132	81	595	234	290	21	230	3	754	24	1,349
埼玉県	54	16	208	241	166	131	762	275	299	13	283	5	857	18	1,619
千葉県	63	25	289	302	258	157	1,031	444	443	11	480	13	1,367	24	2,398
東京都	107	52	536	606	482	271	1,947	688	616	18	643	8	1,947	26	3,894
神奈川県	71	38	353	483	270	152	1,296	453	383	11	397	14	1,233	25	2,529
新潟県	12	5	67	60	44	44	220	57	47	0	89	3	193	3	413
富山県	24	13	109	136	81	38	377	124	160	0	99	6	383	6	760
石川県	7	1	31	60	31	21	144	29	27	0	30	0	86	0	230
福井県	17	8	75	100	49	28	260	67	52	0	61	2	180	2	440
山梨県	13	3	60	80	57	59	259	129	92	0	169	4	390	4	649
長野県	35	22	122	168	124	94	530	186	420	8	264	3	870	11	1,400
岐阜県	8	9	36	54	18	23	140	54	50	0	54	0	158	0	298
静岡県	65	18	204	216	140	84	662	277	237	14	238	2	752	16	1,414
愛知県	60	26	250	282	189	124	871	312	318	9	282	4	912	13	1,783
三重県	6	7	30	37	23	14	111	28	37	1	20	0	85	1	196
滋賀県	31	16	140	214	115	78	563	178	159	2	142	2	479	4	1,042
京都府	35	8	72	89	54	48	271	133	110	2	156	0	399	2	670
大阪府	85	41	307	352	256	145	1,101	450	507	8	365	2	1,322	10	2,423
兵庫県	52	30	219	260	176	148	833	295	330	4	361	2	986	6	1,819
奈良県	33	14	148	161	101	92	516	192	282	10	221	3	695	13	1,211
和歌山県	12	4	73	78	38	27	220	61	77	1	135	2	273	3	493
鳥取県	6	1	23	30	10	12	76	21	23	1	28	0	72	1	148
島根県	2	0	13	19	10	8	50	13	9	1	12	2	34	3	84
岡山県	12	7	80	80	29	22	218	54	55	2	64	3	173	5	391
広島県	10	2	40	47	20	24	133	47	33	0	27	0	107	0	240
山口県	16	5	58	83	60	59	265	78	110	0	82	1	270	1	535
徳島県	7	3	17	15	18	5	58	21	23	4	31	0	75	4	133
香川県	7	0	23	25	16	7	71	18	25	2	27	2	70	4	141
愛媛県	6	0	8	12	11	4	35	20	25	2	25	3	70	5	105
高知県	3	1	3	1	9	2	16	11	9	1	5	0	25	1	41
福岡県	22	12	78	90	53	37	270	106	192	6	198	5	496	11	766
佐賀県	3	2	12	14	5	5	38	13	11	0	6	1	30	1	68
長崎県	7	1	11	28	14	13	67	28	29	1	30	0	87	1	154
熊本県	11	0	20	22	18	13	73	31	39	0	44	2	114	2	187
大分県	12	8	34	46	31	15	134	50	50	0	60	0	160	0	294
宮崎県	13	2	54	73	45	35	209	46	51	0	38	1	135	1	344
鹿児島県	10	1	7	14	19	12	53	25	25	0	26	1	76	1	129
沖縄県	15	1	21	39	49	23	133	52	49	1	49	0	150	1	283
TOFS	1	0	6	8	2	0	16	3	1	0	0	0	4	0	20
合　計	1,146	449	4,428	5,408	3,630	2,422	16,337	5,908	6,598	175	6,084	116	18,590	291	34,927

団数のうち、ガールスカウトクラブ数 東京都　1，京都府　1

前年度に対する割合

	団数	少女会員						成人会員							合計
		ﾃﾝﾀﾞｰﾌｯﾄ	ﾌﾞﾗｳﾆｰ	ｼﾞｭﾆｱ	シニア	ﾚﾝｼﾞｬｰ	計	ﾘｰﾀﾞｰ	運営員		SCAPP		計		
前年度末の数	1,191	432	4,816	5,907	3,888	2,653	17,696	6,067	7,222	212	6,571	136	19,860	348	37,556
率（%）	96.2	103.9	91.9	91.6	93.4	91.3	92.3	97.4	91.4	82.5	92.6	85.3	93.6	83.6	93.0